

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2770700876
法人名	有限会社老蘇さん
事業所名	グループホーム老蘇さん
訪問調査日	平成 20 年 12 月 19 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 13 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2770700876
法人名	有限会老蘇さん
事業所名	グループホーム老蘇さん
所在地	大阪府河内長野市木戸西町2-8-20 (電話) 0721-52-2110

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年12月19日	評価確定日	平成21年1月13日

【情報提供票より】(20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 1 日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人	
職員数	11 人	常勤 7人	非常勤4人	常勤換算 6.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造一部ブロック	造り
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	23,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(180,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	70 円
	または1日当たり	1270 円		

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	6名	男性	1名	女性	5名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 91.6 歳	最低	75 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大谷整形外科 寺元記念病院 高安歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

南海千代田駅近くの閑静な住宅街に位置する定員6名の小規模のグループホームである。当ホームと共用して認知症対応型通所介護も開設され現在3名の利用者が通所しているが相互関係もよく親しく暮らしている。「家庭的な環境のもと個性を尊重しながらのんびりと温もりのある誰にとっても居心地の良い場所」を理念の中心にすえ地域社会や家族と積極的に交流をはかっている。ホームの生活は、利用者の人格を尊重した支援が進められ穏やかな日常生活が保持されている。裏の畑で収穫された新鮮な野菜を食事に取り入れ、医療機関との連携も安心できる支援体制が築かれている。開設から間もなく5年目に入り認知症ケアの豊富な経験を更に外に向けて誘導発信されることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題の要旨は①介護計画見直し時のアセスメントの実施②災害時に必要な備蓄の準備であった。①は職員全員の前向きな取り組みにおいて改善され②も早急に改善された。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者、職員全員で各項目を検証し外部評価のシート作りに参加している。自己評価や外部評価の意義を理解しサービス提供者として利用者の気持を共有すべく取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	市担当職員、市包括支援センター、千代田老人会代表、家族会代表、管理者、職員等が出席して開催されている。会議ではホームの現状、活動状況、行事の計画、地域との交流内容、家族との意見交換が行われている。討議で地域の状況や、ニーズを把握して当ホームを社会資源として何か貢献できる事は無いかと積極的に検討している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情箱を設置しているがほとんど利用されておらず、家族来訪時の会話において苦情にいたるまでに解決されてしまう。また3ヶ月に1回開催されるケアカンファレンスにおいて家族の要望、意見を聞き介護計画に反映できる仕組みとなっている。更に各季節に1回、老い蘇さん通信を発行してホームの内容をお知らせし安心納得が得られるようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩や買い物の途中近隣の住民と会話や会釈を交わし自治会に入会しており、祭り行事、地元中学の和太鼓の見学、保育園の運動会などに招待されている。近隣のグループホームに散歩に寄りたり、お互い招待し合い親しく交流をもち地域との連携を深めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念として「家庭的な環境のもと個性を尊重しながら日常生活のお世話や介助機能訓練を提供し残存能力の維持を図りのんびりとした温もりのある誰にとっても居心地の良い場所」を中心にすえ「地域社会や家族と積極的に交流を図っていきます」と掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は入り口の掲示板や「老蘇さん」のパンフレットにも掲載されている。普段の生活の中に理念が浸透し管理者はじめ職員は日々自然に利用者の気持をくみ取り、1ヵ月に1回の会議でも理念を振り返り実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会して住宅の中の一員として清掃活動にも参加し地域の行事や保育所の運動会、中学の和太鼓見学などに参加すると共に当ホームや地域に出かけて認知症ケアの講習会を開催して交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を全職員が理解し前向きに学習の場ととらえ、改善部分は具体的に検討し管理者、介護支援専門員を中心に一人ひとりが真摯に向上心をもって取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には市担当職員、千代田老人会代表、家族会代表、管理者、職員出席のもとホームの現状、活動状況、行事の計画、地域との交流内容を報告し家族との意見交換が行われサービス向上に取り入れている。しかし、開催頻度が少ない。	○	地域の支援と理解、交流をを深めるため現在取り組み中の100万人キヤラバンメイト「認知症の普及に努めて行こう」という構想を当ホームから積極的に外部に向けて発信啓発をして、更なる運営推進会議の充実と柔軟な工夫検討を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	河内長野市全体のメンバーが参加するケアネットワーク会議や各部会に出席し、河内長野市や他事業所と交流を持ち連携を深めている。市町村介護課職員とは気軽に相談できる体制にある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームからの金銭報告書を送付する時にお便りを同封したり家族の来訪時には一人ひとりにあわせてこまめに話し合いをしている。更にカンファレンスなどでは定期的に暮らしぶりや健康状態について報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口は重要事項説明書にも明記し苦情箱もあるが利用されておらず通常から出入りのしやすいホームなので家族の訪問は多く、コミュニケーションもよくとれている。訪問時または定期的に家族の気持を聞く機会を設け運営に反映させるべく取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム開設以来、職員の離職がほとんどみられず、全ての職員と利用者の馴染みの関係が良く保たれている。職員の自主性を重んじた働き甲斐のある職場づくりにより、離職を抑えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として、独自に選んだテーマで発表する研究発表会を職員に課している。職員の外部研修参加や資格取得を推奨し、費用の一部を事業所で負担している。外部研修受講後は報告書を作成し職員全員で内容を共有している。認知症キャラバンメイト研修にもホームを挙げて取り組む予定である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム交流会に参加している。近くの同業者とは相互訪問する中で、事業運営、サービスについて情報交換をしている。お互いのスキルアップを図り、その結果をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得して入居できるよう、ホームを見学して貰ったり、職員が自宅を訪問したりして、ホームに馴染めるよう支援している。当事業所が行うデイサービスを利用して、馴染みになった後で入居するケースが多い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から育児の助言を貰ったり、日常の相談相手になって貰ったり、共同生活者として支えあう関係を作っている。利用者の自分らしく諦めないで生きようとする姿を通して、職員は利用者を人生の先輩として尊重している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向は、本人との日常の会話や家族との話し合いで把握している。これらの内容は朝の申し送りや介護記録・引継ぎノート・介護日誌に書き止め、スタッフ間で情報の共有を図り、会議でも対応を検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に本人や家族から収集した基本情報や、職員の日常の関わりの中で知れた生活の情報をもとに、会議で話し合い、管理者、計画作成担当者が中心になってアセスメントを行い、介護計画を立てている。介護計画については本人または家族の同意・確認を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常、介護計画の見直しは3ヶ月に1回行っている。毎月の会議での検討と定期的なモニタリングでの評価に基づき、計画作成担当者が計画の見直しを判断するが、3ヶ月の見直し以前に利用者に変化があった場合は、本人、家族等と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かしてホームで医療処置を受けながら生活を継続することが可能である。通院や自宅への付き添いや送迎等も、臨機応変に行っている。利用者だけでなく、近隣の高齢者がデイサービスを利用できるように多機能性を強化している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を優先して、事業所の協力医のほか、入居前からのかかりつけ医への受診を支援している。内科と歯科は隔週～月2回、協力医の訪問診療を受診している。緊急時の搬送医療機関も本人の希望にそって決められている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に、「急変時・救急の対応」について家族と話し合いを行い、「同意書」を取り交わしている。緊急時の搬送医療機関も本人の希望にそって決められており、利用者の急変時・救急対応に関して、医師、職員は方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する言葉遣いや態度で誇りを傷つけないよう配慮し、居室のドアはノックし、外から声をかけている。個人情報の入った記録は鍵のある書類ケースに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決めているが、できるだけ自由に利用者個人の希望に沿って過ごせるよう、支援している。自宅にいればどうするかを常に考えながら、自己決定に委ねている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れたメニューを心掛けている。手作りの野菜や生協で配達される食材を用いて、調理している。食事の準備や後片付けは一人ひとりの力を活かしながら職員と利用者が一緒に行き、食事と一緒に摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、好きな時間に入浴出来るように支援している。希望に合わせてシャワー浴に変えたり、入浴拒否する場合は足のマッサージ、背のマッサージと称して入浴の誘導を行っている。入浴したことを忘れる利用者には、否定せず、一人ひとりにあった対応を心掛けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族、本人から趣味や好きなことを聞き、また、新たな趣味ができるよう支援している。ジグソーパズル、切り絵・塗り絵、般若心経を唱えたり、散歩、犬の餌やり、歌、洗濯物たたみ、など利用者の負担にならないよう配慮しながら出来ることや得意なことをするように支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物、散歩、外食等、できるだけ日常的に戸外へ出かけられるように、支援している。家族が訪問する日は、家族と一緒に外へ出かけて気晴らしとしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関、門に日中は鍵をかけていない。チャイムが鳴ると、ホームで飼っている小型犬のダックスフントが玄関まで飛び出し訪問客を出迎える。犬は利用者にとって大切なペットとして活躍し、鍵をかけないケアの一翼を担っているように見える。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の消防訓練を消防署の協力を得て実施している。避難訓練、消火訓練のほか、自動体外式除細動器(AED)を用いての救急救命訓練も行っている。非常時の水や非常食を備蓄している。地域の方々との合同の防災訓練はまだ実施していない。	○	運営推進会議で防災対策を議題として提言し、地域の方々との災害時協力体制構築を進めることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量はチェック表に毎回記録している。医師の指導のもと、一人ひとりの健康状態を観察しながら、食事形態にも工夫して食欲を促すように、状態に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一戸建ての民家を改造しているので、家庭的な雰囲気である。居間には利用者の好みの椅子があり、それぞれが好きな趣味に没頭したり、くつろいだり出来る場となっている。季節感は、庭の植木や花壇、畑の作物、居間に飾った絵画や折り紙等で感じるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れたダンス、鏡台、椅子、テレビ、仏壇、家族写真、装飾品等を居室に持ち込んで、その人らしく暮らせるように支援している。家具の配置は本人の動きに合うように工夫し、職員が安全性をチェックしている。		